

令和6年1月31日

吉川福祉専門学校  
校長 久田晴實 様

吉川福祉専門学校  
学校関係者評価委員会  
委員長 小潟 竜一

令和5年度 第2回学校関係者評価委員会報告

令和5年度第2回学校関係者評価委員会において実施した「令和4年度自己評価報告書」に対する評価結果について、下記のとおり報告します。

記

1 学校関係者評価委員名簿

阿部 慎也	グループホーム・小規模多機能型居宅介護 サンパティオ 施設長
上田 誠治	埼玉県立三郷高等学校長
小潟 竜一	特別養護老人ホーム吉川平成園 事務課長
山岡 千賀子	介護保険複合施設憩いの里 介護職員 卒業生
與儀 忍	ケアセンター岩槻名栗園 副施設長

(五十音順)

2 学校教職員

久田 晴實	吉川福祉専門学校長
池上 千恵美	同 教員
山本 晃市	同 事務長
田村 貴章	同 事務長代理

3 学校関係者評価委員会開催状況

日 時：令和5年12月13日（水）9時00分～10時40分

会 場：吉川福祉専門学校 演習室

参加委員：学校関係者評価委員4名、学校教職員4名（陪席）

欠席委員：上田 誠治

4 委員会次第

開会

(1) 校長挨拶

(2) 議長選出

(3) 報告

① 第1回委員会報告と情報公開について

② 今年度の授業改善等に関する取り組み状況について

(4) 協議

① 第1回学校関係者評価を踏まえた課題への取り組み・改善の進め方について

② 令和6年度重点目標と達成計画・取り組み方法について

③ 学校に対する意見・要望など

(5) その他

① 今後の予定

② 事務連絡等

5 第2回委員会議事要録

別紙のとおり

以上

## 令和5年度吉川福祉専門学校 第2回学校関係者評価報告書

令和6年1月31日

### 1 第1回委員会報告と情報公開について

- ・第1回委員会を7月14日（金）に実施した。
- ・今後も国家試験対策を学生主体で取り組めるようにしていきたい。
- ・玄関先に1日1問国家試験問題を出題し、皆が見れるようにしている。
- ・国家試験の合格率は96.8%であった。また、留学生は全員合格することができた。
- ・就職率も100%であった。
- ・退学者が5名あった。多様な学生を受け入れるなかで家庭の事情やメンタル面によるものも大きく、サポート体制などを含めて今後の課題のひとつである。
- ・新入生の7割が高校新卒者であった。過去には高校新卒者が1～2割程度だったこともあり、先生方の努力の成果ではないか。
- ・学校単体として黒字化できた。今後も継続していきたい。
- ・子ども大学を数年ぶりに実施した。

### 2 今年度の学校運営および教育活動に対する中間評価について

- ①学生募集の状況について（令和6年度生）

今週の土曜日に留学生3名が受験予定である。また職業訓練生の入学も10名程度見込めればと思っている。最近の傾向としては松戸や野田など千葉県からの職業訓練生の受験も増えている。高校生も同じで松戸や流山など千葉県からもコンスタントに入学してくれるようになってきた。在籍者数は資料の通りで、現時点では退学者は出ていない。
- ②在籍者数について（資料のとおり）
- ③退学者数及び休学者数について（資料のとおり）
- ④成績不振者の状況について、今年度は若干多い。
- ⑤今年度取り組んでいる教育活動について  
実務者研修と初任者研修を実施した。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で中止していた初任者研修を数年ぶりに開講したが、受講者は例年に比べて少なかった。
- ⑥その他の活動について
  - ・就職説明会実施
  - ・子ども大学よしかわ実施（2日間）

- ・岩槻北稜高校の生徒がインターンシップに2名参加してくれた。
- ・フランスベッド株式会社より全自動の介護ベッドを借用しており、地域の施設にフランスベッドの介護用品の案内会を開催した。

#### ⑦介護実習について

訪問介護実習を以下のように実施した。

- ・新型コロナウイルス感染症の影響で利用者さんの自宅での実習ができなかったため、4日間を学内実習として実施した。
- ・訪問入浴事業者の方に来校いただき、浴槽体験を実施した。
- ・薬剤師の方に来校いただき居宅療養管理の指導方法等を学習した。
- ・先天性重度障害の方に来校いただき、重度障害者について学習した。
- ・通所介護では、看護と介護を24時間サービスで実施している事業所長の方と定期巡回サービスの職員の方に来校いただき、通所介護について学習した。
- ・埼玉県警の方に来校いただき、在宅で生活している高齢者への特殊詐欺の被害防止について学習した。
- ・認定看護師の方に来校いただき、褥瘡予防やストマケアについて学んだ。

#### ⑧第13回オールジャパンケアコンテストについて

- ・本校の学生が優秀賞を受賞した。

### 3 第1回学校関係者評価を踏まえた課題への取組み・改善の進め方について

- ・介護支援用ロボット（HAL®）を借りていたがレンタルが終了したため、フランスベッド株式会社から最新型の機材を借用し、これからの介護の明るい未来を学生や入学希望者に提供していく。
- ・第8回吉福祭（文化祭）を実施した。午前中のみの実施だったが参加者も多く大盛況であった。
- ・就職活動の時期が早まっている。担任を中心にジョブカードアドバイザーの資格を有した教職員も学生のサポートにあたっている。
- ・留学生向けの日本語指導も例年どおり90分授業を週2回実施している。留学生全員（2年生1名、1年生0名）が介護施設でアルバイトをしており、アルバイト先のサポートも大きい。
- ・昨年度卒業した卒業生の早期の離職率が高かった。学校としても反省すべきところである。
- ・退学率の低減については、先生方が親身に対応してくれたおかげで、今年度は現時点で出していない。
- ・Wi-Fi環境の整備をしたいが今年度は難しい。

- ・ 学生募集については、令和6年度入学生の状況は厳しい状況である。全国の定員充足率が51.3%の中、本校は令和5年度が82.5%であった。令和6年度は70%くらいになるのではないかと推移している。引き続き魅力ある学校づくりを目指したい。
- ・ 早期での離職ということで何か月または何年での離職なのか、また原因について把握している範囲で教えてもらいたい。
- ・ 32名の卒業生のうち7名が7月までに離職した。そのうち6名は次の施設への再就職が決まったが1名はまだ介護職に戻っていない。原因は大きくわけて2つ考えられる。1つは新規の施設に就職したことがあげられる。新規立ち上げということで、施設側も利用者さんとの関係が築けていない中、利用者さんとうまくいかなかったときに先輩に相談したと思うが、先輩もまだ関係性ができていないため、なかなか施設もフォローができなかったのではないかと推測している。もう1つは年配の方（主に職業訓練生）の就職である。介護観や倫理観など、こうあるべきだ！介護職としてこういう接し方をしないとイケないという考えを持つことは決して悪いことではないが、実際に現場の介護職の一挙手一投足に対して、なぜこんな言い方するのか、なぜサポートをしてくれないのかなど、不信感が芽生えてしまうケースが見られた。介護職として働きたいという意思があるので、別の施設に再就職をしたが、今後の対応としては、就職先とのミスマッチを防ぐサポートに力を入れていきたい。
- ・ 卒業生の中には、本来研修を終えていない介護福祉士がやってはならない喀痰吸引をやりなさいと言われたケースもあったとのこと。
- ・ 卒業生が卒業したあとに相談できる環境があることはいいことだと思う。毎年卒業生からの連絡はどれくらいあるのか。
- ・ 卒業の時点で心配している卒業生ほど来校してくれている。卒業生も先生方と話をすることで励みにもなっており、職場継続の一因になっているのではないか。社会人や職業訓練の卒業生よりも高校新卒で入学した卒業生の方が来校率は高い。一方で全員ではないが介護実習の巡回指導時に卒業生が辞めていることを知ることもある。より卒業生と良い関係が作れるよう、卒業生たちが帰って来れる場所を強くしていくことも学校運営上必要だと考える。
- ・ 留学生が国家試験に合格されているのは素晴らしい。現場でも外国人職員が働いているが記録に手間取っており会話は問題ないが読み書きが難しい。引き続き全員合格を目指して欲しい。
- ・ 留学生は卒業後に来校しているのか。
- ・ 相談というより、お菓子を持って遊びにきてくれる。また就職した施設の方から情報が入ることもある。

- ・特定技能を受け入れている施設が増えていると聞くが実際はどうか。
- ・同じ法人の施設ではミャンマー、韓国、ネパールの方がいる。特定技能の費用は派遣社員とほぼ変わらないくらいかかる。日本人スタッフだけでは職員確保が難しい側面もあり、介護施設としても課題のひとつであると思われる。
- ・私の施設でも、2名の外国人職員（ベトナム）がおり、来年介護福祉士の国家試験を受験予定である。
- ・私の施設では、外国人職員が4名いる。モンゴル、ミャンマー、ベトナムから来ている。うち2人は実務者研修を受けている。また、今後ミャンマーから3名が入職予定で2名が日本語学校に通っている。特定技能だけでなく養成校に入って卒業するメリットがあるので計画的に法人で進めている。
- ・越谷市の施設では、越谷市が間に入り段階的に3、4名をふた月に1回くらい受け入れている。自国で介護の資格をもって来日しているので介護技術的には問題ない。日本語の会話は問題ないが読み書きが難しい。勤務時間内に日本語教育の時間を設けている。課題の一つに費用面があり、宿舎を用意したりバックアップ体制が整っていないまま外国人スタッフを受け入れている状況も見受けられる。当施設でも記録業務を除いた作業を中心に働いてもらっている。
- ・本校に通う留学生は、母国で医療や薬学系の大学を卒業した学生も多く指導は比較的しやすい。
- ・少子化なので学生募集が一番大きな課題ではないか。留学生の受け入れはここ数年、数名程度で実施されてきたと思うが、どこかで留学生の受け入れ比率の検討も必要ではないか。他の専門学校では留学生が半分くらいいるとも聞いている。留学生をはじめ外国人スタッフを受け入れていかないと、今後介護業界が成り立たなくなってしまうのではないかと危惧している。
- ・高校生が直接介護施設に就職するケースはどれくらいあるのか。
- ・私の施設では、介護福祉科のある高校から直接入職したことがあったが、高校新卒で即現場に馴染むことが難しかったのか、1年たたないで辞めてしまった。
- ・2年前に高校新卒者を採用し今も続いている。特に入職初年度はメンタルケアなどに十分気を配り対応した。
- ・ここ数年、高校新卒者は採用できていない。
- ・6～7年前に高校新卒者が3名程度入職した。1名は福祉科のある高校からで、残りの2名は普通科の生徒であった。施設としても、高校新卒者へのアプローチを検討している。

#### 4 次年度の重点目標および達成計画について

- ・国家試験の不合格者について、卒業後5年間続けて介護現場で働くことを条件に一生涯有効な正式の介護福祉士資格として認められる経過措置について、留学生の多い学校（専門学校）は経過措置の延長等を要望しているが、4年制大学は反対している。
- ・埼玉県には介護の養成校が9校（大学2校、専門学校7校）ある。先々週行った会議にて他校の様子を聞いたところ、介護施設は職員の定着率を上げたい。養成校は退学者を減らしたいという強い思いがある。どの学校も留学生を含め多様な学生が多くなっている。学生募集については、高校にあいさつ回りに行くことが王道ではあるが、現高校生に福祉の魅力を伝えても遅いという意見が多かった。遅くても中学生くらいから福祉に対する偏見や垣根をとっばらわないと、学生募集はますます難しくなるとの意見がでた。今後は小・中学校の授業に福祉の活動を組み込んだり、県や介護施設が地域の小・中学校に働きかけをしたりしていかないと、特に若年層の日本人の介護人材が広がっていかないだろうという話があり、本校としても様々な角度から学生募集に結び付けていきたい。

#### 5 その他学校教育活動全般について

- ・特になし